２０２４年（令和６年）１１月２８日発行　No.０１５

郷土研通信

トドマツ
アイヌ語：ふプ（屈斜路）
北海道では正月の門松の代わりとして使われた。

発行者：てしかが郷土研究会
北海道川上郡弟子屈町中央３丁目２－１０（松橋方）
文章責任者：松橋　秀和

近況報告

・水越武氏　写真作品の回収完了

以前に作品を回収しましたが、その後北のアルプス美術館と水越氏が確認したところ、数点取りこぼしがあり、十一月十三日に回収を完了しました。

・北のアルプス美術館　所蔵作品がお菓子のパッケージに

ＳＮＯＷＳの商品「スノーサンド」に北のアルプス美術館で所蔵している〝山の版画家・大谷一良〟の「雪の斜里岳」をパッケージにして販売されています。

新千歳空港と東京駅での販売ですが、北のアルプス美術館では期間限定で十二月一日から予約販売されています。商品売り上げの一部は寄付されます。

（詳しくは北のアルプス美術館のホームページを確認してください）

北のアルプス美術館の入館料は無料で、美術館の運営は寄付金で賄っており、志す分野に違いはありますが〝文化〟を語り継ぐと言う目的を同じくする仲間に、おいしいお菓子を食べて応援ができたらいいですね！

スノーサンドとパッケージ

勉強会

仮題
「自然写真を撮りつづけた私の半生」
講師　自然写真家
水越　武さん

氏は、山（登山）を知るようになったのは、幼いころ、母と一緒にいられる時間が嬉しくて「御岳講」で登山に行く母に同行してからであるとのこと。

自然環境と生物学に興味が出てきて、関係の大学を希望したが叶わなず、その後、自然写真撮影の基礎を作ったといわれる師について学び写真の世界に入るようになったこと。

人と同じことをするのを好まない生来の性格からくるのか、自分の自然に対する姿勢をモノクローム・フィルムで光と影で表現し、見てくれる人に伝えることだ、と思うようになってきたこと。

仕事の仕方が徐々に永続的に残る「写真集」へと仕事の比重が移っていくようになっていき、写真の世界で認められる「賞」をいただけるようになってきたこと。

これまでに多くの「写真集」を出すことができたが、子ども向けの「自然写真集」がないので出版したい希望がある。また、「辺境」には手つかずの自然がまだ残されているので興味があるとのこと。

年齢を重ねてきて体力の衰えを感じているが新しいことに挑戦する気力の方はまだ充分であること。

弟子屈へ生活の拠点を移したのは、自然の移り変わりにリズムがあり、火山・湖・森が身近にあるこの場所となったこと。

氏の代表的な写真集を通して、写真に対する姿勢などをお話ししてくださいました。

当日は、例会に出席された会員に開催中の写真展の図録をプレゼントしてくださいました。

２０２４年（令和６年）１１月２８日発行

No.０１５

むかしむか史写真館

No.348

次回の例会

通常の例会を予定していましたが、年末でもあることで急遽「忘年会」として、新会員・新学芸員と交流を図りたいと思います。

とき・一二月一八日（水）
一八時から
ところ・もっきり家
忘年会費・五〇〇〇円
参加できる方は連絡をお願いします。
※年会費未納の方は二〇〇〇円を一緒にお願いします

昔の〝絵はがき〟に写る川湯温泉街

右奥に写っている立派な建物が創建当初の頃の御園ホテル。
背後の山は藻琴山

現在、再開発計画が進められている川湯温泉街では、廃屋となっていた大型ホテルのいくつかがすでに撤去されました。令和六年三月に取り壊された「御園ホテル」もその一つです。

御園ホテルは、九二年前の昭和七年に創業しました。昭和一四年の朝香宮殿下をはじめ、多くの皇族が宿泊した格式高い宿であり、昭和三一年に出版された原田康子のベストセラー小説『挽歌』に登場する“Ｋ温泉”の舞台となったホテルとしても知られています。原田康子自身もこの宿にたびたび滞在していたと伝えられています。

小説の中で、このホテルは次のように描写されています。

〝雪をかぶった高い針葉樹の森を背にしたそのホテルは、どこか古風なかんじのする鉄筋三階建ての、あまり大きくない建物だった。ホテルの窓の灯は疎らにともっていた。そのせいかそのホテルは、北ヨーロッパの森の奥にある、妖婆（ウィッチ）がたくさん棲んでいそうな、中世紀の古城のように見えたのである。〟

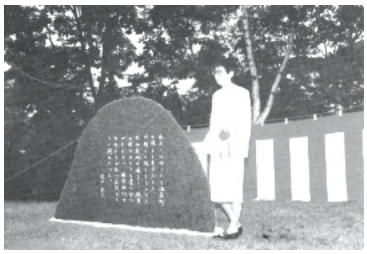
「原田康子『挽歌』より」

この小説が書かれたのは、写真が撮られた時代から二〇年以上後のことです。写真には、創業当時の建物が写っていますが、その後に横に増築された別棟も含め、小説に描かれる情景そのものを想起させます。

川湯温泉の黎明期から移り変わる温泉街を見守り続けた御園ホテルは、その長い歴史に幕を下ろしました。

今、急速に変化しつつある川湯温泉街の中で、御園ホテルがあった場所の近くにある足湯の裏手には、原田康子の文学碑がひっそりと佇んでいます。この文学碑は、小説『挽歌』が空前のベストセラーとなり、北海道に観光ブームをもたらした時代と、当時の川湯温泉の記憶を静かに伝えています。

安藤　心　筆



「挽歌の碑」（文学碑と原田康子）

文学碑挽歌建立期成会
1992. 9. 24から

むかしむか史写真館 原稿募集

弟子屈　の歴史・文化に関する記事を書いてみませんか？

図版とそれを解説する文章、文字数八百から千二百字程度を募集します。